平成29年度　各種調査結果等を活用した学力保障の取組事例

事務所名	盛　岡	学校名	八幡平市立西根中学校	ＴＥＬ	0195-76-3530

校内研修体制の確立と言語活動モデルを活用した「わかる授業」

【今年度の目標】

（１）授業をお互いに公開し、参観できるＯＪＴシステムを継続する。各種研修、訪問指導の機会を活用し、さらにＯＪＴの充実を図る。
（２）「わかる授業」の要素を共通理解し、「より質の高い授業」を９教科で提供する。
（３）授業に「言語活動モデル」を取り入れ、生徒が情報を統合して自分の考えを組み立て「書くこと」を通して思考力、判断力、表現力の向上を図る。
（４）各種調査における「授業がよくわかる」「わかる」と回答する生徒が80%以上を占める。
（５）各種調査において全教科が県平均を上回るよう、調査の評価内容に対応した授業を行う。

【組織的な対応を図る上で工夫した点】

（１）日常の授業を活用して研修できる「授業参観週間（１人１授業公開）」の設定と、訪問指導を活用した授業参観。（Ｈ28年度２学期には「学力対策特別委員会」を設置した）
（２）「わかる授業」に向けた授業改善と授業力向上のためのＡＲ〔アクションリサーチ〕（２年目）。
（３）日常の授業での「言語活動モデル」を活用した授業の継続実践（３年目）。
（４）基礎学力テストと学習委員会の「1000時間運動」の全校取組の実施を通した基礎事項の定着。
（５）教務部による「各種調査の分析と考察」に基づいた、研究部による「授業改善」の提案。

【具体的な取組】

1　授業参観週間（１人１授業公開）の取組

授業力向上や授業改善に向けて、教師一人一人が自分の授業を公開し、お互いに助言できる機会を学期ごとに設定した。「授業参観シート」を活用しながら、授業参観の視点の共通理解を図った。

○「授業参観シート」に記載した授業参観７つのポイント！

① 復習が位置付いている（既習事項と結び付けて新出事項を導入している）。
② 学習課題（授業メニュー）が生徒の意欲と結びついて提示されている。
③ わかりやすい説明と見やすい板書がなされている。
　■簡潔な説明　■具体的な行動指示　■適切なアドバイス
④ 十分な思考時間が保障されている。
⑤ アウトプット、表現＆言語活動、実技の場面が取り入れられている。
　（日常の授業でペアやグループ学習の場面が取り入れられている）
⑥ 十分な練習時間が確保されている。
⑦ 学習内容の振り返りの場面が設定されている。

授業参観の視点を基に授業について気付いたこと、感想、アクションリサーチの自己課題から自分の授業に活かせること、自分の授業で改善したいことを授業参観シートに記録して共有した。
例年の授業研究会では共通の教育課題に取り組む教科グループでワークショップを行っていたが、今年度はアクションリサーチでの共通した課題を持つグループでのワークショップにも取り組んだ。

2　わかる授業作りとアクションリサーチ

（1）　わかる授業の取組
わかる授業の要素を、以下の①～⑤であると確認した。

① 新出事項の前に既習事項の復習の位置づけ！
② 学習課題の確認！
③ アウトプット活動の活性化！
④ 振り返り場面の設定！
⑤ 家庭学習との連動！

９教科での共通実践へ！

■ 9教科での共通実践

①授業の始まりに既習事項の復習時間を設け、テスト等で前時の復習を行い基礎的な内容の確認と定着を図った。その復習事項と関連付けて、新出事項を導入する工夫を継続した。

②「学習課題」、「まとめ」、「振り返り」のラミネートシートを各教室に準備した。そのシートを活用して本時の学習課題を確認し、課題を意識した授業を展開した。授業の終わりには、課題に対するまとめを行い、学習内容の定着を確実なものにするために振り返りの場面を設定した。

③授業では理解する内容だけでなくアウトプットも重視し、自分の意見を話したり、書いたりする場面、自分の考えを発表する機会、実技の時間をできる限り設定した。

④授業での学習内容が家庭学習につながるように、学習プリントや補助教材を工夫した。

(2) 全職員によるアクションリサーチの取組

学校のテーマとは別に１人１研究として自己解決シートを基に全員で取り組んだ。シートには「各自の課題、課題が解決された時の生徒の姿、具体的な課題解決策の方法」等について記述し、年間を通して取組を行った。シートには学期ごとに取り組んだ内容を記録し、共有フォルダに保存した。随時閲覧可能な状態として情報の共有化も図った。実践内容は、冬季休業中の校内研修会でアクションリサーチの個人テーマの共通グループを構成し、発表会と協議を行う。

■アクションリサーチ 個人テーマ〔H29年度〕

氏　名	教科指導に関する課題	課題解決の手立て
工藤　リカ （美術）	・様々な題材の学習や体験を通して、生活や環境の中に存在する美術的要素や美術文化に興味を持たせる。 ・基礎基本の習得 ・作業時間の確保	・作品制作と鑑賞の内容に関連を持たせる。 ・学習シートを活用し、基礎基本の学習を丁寧に行う。
佐々木朋子 （国語）	・考えをまとめ、書く場面を増やす。	・文例や書き出しと文末を提示するなど、段階を踏み、まとめさせたり、書かせたりする場面を多く位置づける。
酒井　利恵 （国語）	・「書くこと」を位置づけた単元づくり ・アウトプットの活動の設定 ・語彙を増やす取り組み ・グループでの学び合い指導	・モデル文の提示や段階を踏んだ「書くこと」の指導 ・グループ活動の効果的な設定 ・辞書の活用、読書の推進
赤坂　裕子 （音楽）	・音や音楽への興味・関心を喚起させる指導と評価の在り方 ・音楽表現への意欲や願い、目指すイメージを持たせるための指導の工夫 ・音や音楽のよさや美しさについて言語や音で交流・共有し合う時間を確保する授業展開の工夫 ・学んだことをスパイラルに生かしていくために、ワークシートや板書等、可視化の工夫 ・専門家の指導を仰ぐ機会の設定	・音楽活動を支える基礎的な能力を、音楽活動を通して身に付けさせる。 ・音や音楽との出会わせ方を大切にする。 ・言語や音で表現する体験を継続的に行う。 ・集団や個による感動体験、成功体験を味わわせる。 ・音楽表現に対して、教師が妥協することなく生徒と共に追求する。 ・音楽表現の技能を身に付けさせる。
髙橋　友恵 （国語）	・本時の課題、学習の流れが分かる板書の工夫 ・生徒の発言を活かした授業の展開 ・「個→集団、集団→個の学び」を通して生徒一人一人が自分の考えを広げることができる授業の工夫（グループ学習の在り方）	・課題を明確にした分かりやすい板書 ・どの生徒も積極的に発言できるような発問の工夫をする。（易しい発問→難しい発問） ・考えをまとめさせる（書く）時間を確保する。 ・発表・交流の際には、聞く側にも仲間の考えを受け入れる姿勢を持たせる。
木下　淳 （社会）	・調査活動、情報交換に時間がかかる。 ・授業では分かるが、定着していない。	・問題解決型の学習で活動形態を工夫する。 ・前時の学習内容を復習して授業に入る。
米倉　重智 （技術）	・説明を極力減らし、学び合いの場を多く設定すること。	・授業構成の工夫と見直し
安保　秀美 （家庭）	・生徒が、主体的に課題に関われるような視点からの授業の構成 ・製作、調理、観察、実験、見学などの「実践的体験的な学習活動」の充実 ・学習シート、レポート、対話や発表等、生徒の思考を可視化する手立てや機会の充実	・本時の学習課題に関わるニュース、情報などを授業のはじめに触れる。 ・毎日の教材教具の工夫

花坂　郁也 （数学）	・式をつくること，読む力に関すること ・式，図，表の関連について ・言語活動の場の設定 ・考える時間の確保	・言葉の式から式の意味を考えさせる。 ・他の方法ではできないか考えさせる。
桂　敦子 （数学）	・基礎、既習内容の意味を理解しアウトプットできる力の育成、定着を図る。 ・自己評価、評価問題など、評価方法について	・意味や性質を話す場面を多く設定する。 ・問題演習量を増やす。 ・教材研究を深める。
杉浦　学 （理科）	・意欲を持って臨むための教材教具の工夫 ・言語活動の充実	・教材教具の活用の仕方を工夫する。生活の中で身近なものを扱う。 ・グループでの考察場面の設定 ・時間の確保
平野　智也 （理科）	・教師サイドからの一方的な説明が多い。 ・指名されると何とか答えようと努力するが、文章にならない場合もある。 ・実験結果の分析等では、論理的思考で考えることを苦手としている傾向がある。	・生徒の活動場面を増やす。 ・学習プリントを活用し、考える道筋やヒントを与え、理解に役立てる。 ・自分の意見をまとめる場面や、小グループで発表し合い、学び会う場面を多く設定する。 ・発表の際には、根拠を明らかにさせる。
佐藤　健二 （英語）	・基礎基本の定着 ・グループ学習の工夫 ・ＩＣＴを活用した授業の工夫	・学習シート、ノート指導の工夫 ・ペア、グループでの学習活動 ・小テスト、単元テストの実施
高村　将教 （英語）	・基礎基本の定着 ・英語による授業	・できるようになるまで、スモールステップで行なう。（小テスト、単元テスト） ・ＡＬＴとのティームティーチングの工夫 ・ペア、グループでの学習場面を取り入れる。
前田　広一 （社会）	・生徒の意欲・関心を高める導入の工夫	・ＩＣＴを活用した情報提供 ・ホワイトボードを活用したグループ学習 ・多用な考えが引き出せる授業展開の工夫
小原　典子 （体育）	・運動を苦手とする生徒の関心と意欲の向上へ向けての手立てを打つ。 ・体力の向上 ・関わり合う授業の展開	・運動に対する意識調査のもと、具体的な手立てを考える。 ・スモールステップの学習を計画する。 ・グループ解決型の学習の展開
石積　康弘 （英語）	・「わかる」と「できる」をつなぐ場面で、「できる」段階のスモールステップの効果的な組み立て方を工夫する。	・授業における「メニュー」の工夫 特にスキルアップを意識した、継続的な練習を位置付ける。
髙橋　洋之 （体育）	・運動に対しての関心と意欲の向上 ・苦手な子ども達ができるようになり、達成感を味わうことのできる手立て ・関わりあう授業の展開	・生徒の特性をつかむ。 ・グループ解決型の学習の展開場面の増加

Output!
「できる授業」

3　言語活動の充実

本校では「つくば言語技術教育研究所」における研修を参考に、言語力を磨く「言語活動モデル」を次のように設定し、表現力の育成を図った。

【言語活動モデル】

学習過程	学　　び　　方	言語活動 （学習形態）	言語技術の指導 （発問の要点）
■資料提示 ■課題設定 ①情報分析 ②思考・判断 ③表現 ■振り返り	①情報から読み取れる事実をあげる ②情報から考えられる事の真偽を判断する ③情報を総合して自分の考えを組み立てる	○読む（個人） ○聴く／話す （小グループ） ○書く（個人）	・事実を問う （いつ どこ 誰 何） ・根拠や理由を問う （なぜ） ・状況を問う （どのように）

【表現力の育成に向けて】
「言語力」を「言葉を論理的に組み立てていく力」と定義し、日々の授業で「情報を分析し、課題について論理的に考え、情報を総合して相手が理解できるように、自分の考えを組み立てて表現する」学習を重ねてきた。この取組を３年間継続したことで、各教科における発表場面において、表現力の高まりが認められるようになった。

【言語活動モデルの具体的なプロセス】

1 【読む活動】課題解決のために必要な情報を収集し、情報を分析する。5W1Hに注目し読み取れる事実を確かめる。

2 【聞く活動】事実と意見を分析して聞きながら根拠を確かめ内容を再検討する。グループ協議では相手の考えや意見の理由や根拠を確かめる。

3 【話す活動】自分の考えを整理し、根拠や理由を明確に論理的に話す。

4 【書く活動】それまでの学習をまとめて客観的な根拠に基づき自分の考えを書く。自分の考えが相手に正確に伝わるように読みやすい構成で書く。

「言語力」は書くことによって鍛えられ、書くことによって思考力・判断力・表現力を高められると考えている。
定着を確かなものにするために、授業の最後の振り返りで自分の考えをまとめ、分かったことも簡単に記述している。

4　基礎事項の定着に向けた全校での取組

(1)　基礎学力テスト
本校では基礎学力テスト「めざ100」として１学期に国語・数学・英語、２学期に数学、３学期に英語の基礎テストを全校で実施している。学習の基礎となる内容の定着と学習方法を身に付けるための取組として行っている。　【「めざ100」は、「目指せ100点」の略称】

■「めざ100」１学期のテスト内容■

（国語）漢字５０個のうちから２５問出題×４点＝１００点
（数学）１年生４３問、２年生４２問、３年５６問から２５問出題×４点＝１００点
（英語）１年生　アルファベット大文字・小文字×１点＝５６点
　　単語３０個から２１問出題×２点＝４２点　基本文１問×２点＝２点
　　２年生　英単語５０問出題×２点＝１００点
　　３年生　英単語２０問＋動詞等の変化形など３０問出題×２点＝１００点

基礎的内容の１００％マスターを目指して取組週間を設け、朝読書の時間や家庭学習で練習し、テストを受ける。９０％で合格とし不合格の場合は、昼休み等を利用し合格するまで再テストを実施。「満点賞」を目指して、学年・学級単位で真剣に取り組んでいる。
テスト内容は生徒の実態や課題、不得意な領域などに応じて２学期、３学期とレベルアップしていく。２学期の数学は、３年生では「公式５０問」の暗記に挑戦した。また、計算が苦手という課題に対しては、昨年から全校で小数と分数の計算に年間を通して取り組んだ。

(2) 学習委員会「家庭学習1,000時間運動」＆中学校区の３小学校との連携
定期テストの学習取り組みで学級の合計学習時間が1,000時間を超える活動を行っている。各班の班長が班員の前日の学習時間を確認し集計し、学習委員は班毎に出した学習時間を集計。３年生は2,000時間など、各学年により目標時間を設け学年生徒会も呼びかけを行う。
保護者アンケートでは「家庭学習習慣が身に付いている」への回答が約75%である。学習内容にも工夫を加えながら、回答が85%以上になるように取組を継続する。
また、西根中学校区の３つの小学校と連携した「家庭学習強化期間」や「NoメデイアDay」に毎学期取り組んでいる。

5　各種調査の分析を活かした授業改善

県新入生学習定着度状況調査、県学習定着度状況調査、全国学力・学習状況調査等から、各学年の課題となる領域と出題の趣旨を確認し、低い傾向にある領域については、教師が改善内容を意識した授業を行った。各教科担当が意図的に学習内容の復習に取り組み、定期テスト等で定着の確認をした。社会や理科は同傾向の問題を定着するまで出題した。数学は低い領域をピックアップし、２分前学習で継続して取り組んだ。英語の基本文や数学の公式を廊下に貼り出すなど、学習環境作りも工夫した。

教科の枠を超えたＯＪＴにより、５教科の担当が実技教科の「アウトプットの豊富さ」から多くを学び、表現力の育成に活かせた。平成28年度２学期からホワイトボードを80枚購入したが、各教科のグループ学習で多く活用され、発表スキルが高まった。

【成果】

（１）授業力向上や授業改善に向けて、授業参観シートを使用しながら授業を参観することで、改善の視点やアクションリサーチの個人テーマを意識した意見交換ができた。研究会での個人テーマ毎に構成したワークショップでは自己の視点で授業分析することで、授業改善を意識した協議ができた。

〔授業参観シートの記入例〕

自然体で生徒とのやり取りも温かく、生徒が話しやすい雰囲気ができていました。資料が豊富で、生徒たちが「なるほど」と思える場面が多く、自分で課題の答えを書くことが出来ていました。ものすごく多忙な中、資料の準備、アイディア、素晴らしいと思います。勉強になりました。

〔自分の授業で改善したいこと〕

■言語活動を取り入れる目的をはっきりさせたい。考えさせる事は何かを教師が具体的にイメージできるようにしたい。考えと理由をセットで表現できるようにしたい。何が分かったか、何が疑問かを表現できる「振り返り」をさせたい。（30代の先生）

資料がとても豊富で、全体でプロジェクターで確認しながら進めていて、とても分かりやすそうでした。考える手立てや、次の指示がプロジェクターやシートで分かり、生徒たちが安心して学習出来ていました。

〔自分の授業で改善したいこと〕

■ホワイトボードの活用、板書、黒板のスペースの確保。ねらいに対する振り返り。グループ学習での視点の与え方を工夫したい。（40代の先生）

英作文と聞き取りの授業で、視点の⑥以外はすべて盛り込まれた素晴らしい授業でした。英作文の様子を見て驚いたのは、白紙が一人もなく、皆よく書けていたことです。声をかけると「昨日、たくさん練習しました」とのこと。学年の課題である、「定着に結び付く家庭学習」が位置付いているところに、日頃の徹底した指導と生徒の意欲を引き出す工夫の成果を感じました。

〔自分の授業で改善したいこと〕

■「これは絶対はずせない」という基礎・基本を徹底すること。「わかった」、「できた」という体験をたくさん積ませること。興味を引き出す教材作り。（50代の先生）

（２）「言語活動モデルを活用した授業」や「わかる授業」の実践を通して、授業改善の方向性を確認しながら、チーム西中として取り組むことができた。また、次期学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」は、「言語活動モデル」で実践できることが確認できた。

■各種調査の正答率〔平成29年度３年生〕（　　）内の数値は県比

教　科	Ｈ27年４月 県新入生学調	Ｈ28年10月 県学調	Ｈ29年４月 全国学調
国　語	61.3(－7.8)	64.2(－6.3)	A　75.3(－2.1)
			B　70.0(－2.2)
数　学	66.2(－7.8)	39.4(－11.7)	A　60.5(＋0.1)
			B　41.3(－4.0)

■学校評価（まなびフェスト）に関する生徒アンケートの結果〔３年生　93名〕

〈質　問　項　目〉	Ｈ28年 （11月）	Ｈ29年 （11月）
①　生徒の学力向上に熱心な学校だと思いますか	91%	98%
②　授業に「課題」「発表活動」「振り返りの場面」はありますか	92%	100%
③　学校は家庭学習について指導していますか	90%	99%
④　あなたは授業を理解していますか	87%	91%
⑤　あなたは家庭学習の習慣が身に付いていますか	87%	93%